

◆アフターサービス

アフターサービスを依頼する前に「故障・異常の見分け方と処置方法」を見てもう一度確認してください。確認の上で不明な場合は、ご自分で修理なさらず、お買い求めになった販売店または当社「お客様係」 ☎0120-75-5000までご相談ください。

草焼バーナーPro KB-300 保証書

この製品は万全を期していますが正しい使用にもかかわらず万一故障した場合は本保証書に製造番号、お買上げ年月日、販売店名、お名前、ご住所、お電話番号および症状をお書き添えのうえ、お買上げの販売店に修理をご依頼ください。

製品名・型式	草焼バーナーPro KB-300	お名前
製造番号		ご住所
保証期間	お買上げ日より1年間	お電話 ()
お買上げ日	年 月 日	
取扱販売店・住所・電話番号		症状

新富士バーナー株式会社

品質保証規定

※この保証規定は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。

- 保証期間内に、取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意に従った正常なる使用状態において、万一故障した場合には、無料で修理いたします。
- 修理依頼時には、つぎの事項にご注意ください。
 - 必ず商品と本保証書をご提示ください。
 - 保証期間を過ぎた修理依頼も商品と本保証書をご提示ください。
 - 商品と本保証書の提示のない場合は、修理をお断りすることがあります。
 - ご贈答品等で本保証書にお買上げ販売店に修理をご依頼できない場合には、当社「お客様係」 ☎0120-75-5000までご連絡ください。
- 保証期間内でも、つぎの場合は有料修理になります。

- ・火口、ノズル、気化器(予熱パイプ)、パッキン類等の消耗品の交換。
 - ・使用上の誤り、不当な修理や改造による故障および損傷。
 - ・お買上げ後の落下、移動、輸送等による故障および損傷。
 - ・火災、地震、水害、落雷、塩害、弊社指定以外の燃料使用によるもの、その他、天災地変、公害による故障及び損傷。
 - ・保証書の提示がない場合。
 - ・本保証書の所定事項の未記入、あるいは字句を書き換えられた場合。
- 本保証書は、日本国内においてのみ有効です。
 - 本保証書は再発行しませんので紛失しないよう大切に保管してください。

製造発売元
新富士バーナー株式会社

〒441-0314
愛知県豊川市御津町御幸浜一号地1番地3
TEL0533-75-5000(代) FAX0533-75-5033
http://www.shinfuji.co.jp/ MADE IN JAPAN
E-mail:info@shinfuji.co.jp

2024.2

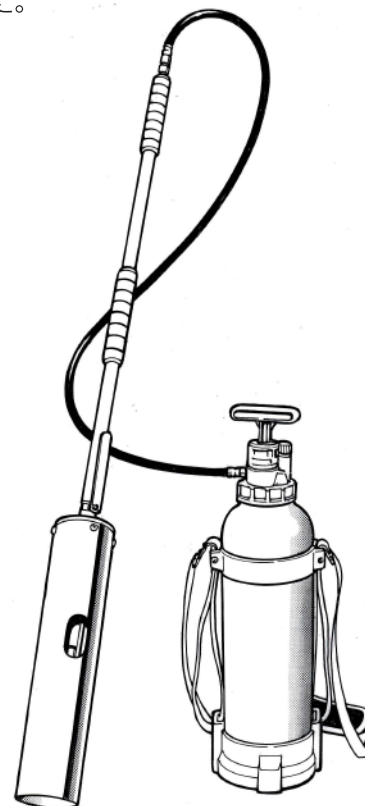
ShinFuji Burner

草焼バーナーPro KB-300

取扱説明書

〈生産物賠償責任保険付・保証書付〉

このたびは草焼バーナーPro KB-300をお買上げいただきまことにありがとうございました。



目次

- 特に注意していただきたいこと・・・2～3
- 草焼のメリット・予熱作業について・・・4
- 各部の名称・仕様・・・5
- 作業全体の流れ・・・6
- 使用方法・・・7～12
- 部品交換のしかた・・・13
- 日常の点検・手入れ・保管・・・14
- 故障・異常の見分け方と処置方法・・・15
- アフターサービス・・・16

⚠ 注意

正しくご使用していただくため
ご使用前に必ずこの取扱説明書
をお読みください。またお読み
いただいた後も大切に保管して
ください。

屋外専用

◆特に注意していただきたいこと

イラストの横にある  マークは「禁止」、 マークは「強制」を表しています。

危険 (取扱を誤った場合、使用者が死亡又は重傷を負う危険が切迫して生じることが想定されることを表します。)

■ガソリンの使用厳禁

燃料は必ず灯油を使用してください。ガソリンなど揮発性の高い燃料は絶対使用しないでください。火災の原因になります。



警告 (取扱を誤った場合、使用者が死亡又は重傷を負う可能性が想定されることを示します。)

■可燃物の近くでは使用禁止

火気厳禁の場所、家屋、板べい、かやぶき屋根、はめ板などの燃えやすいもののそばでは火災の原因になりますので絶対に使用しないでください。

■給油時は消火してから

給油は必ず消火を確認してから行ってください。火をつけたまま給油すると火災のおそれがあります。

注意 (取扱を誤った場合、使用者が傷害を負う危険、及び物的損害のみ)の発生が想定されることを示します。

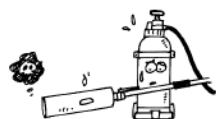
■落下禁止

両手でしっかりと持って作業してください。予想しない事故が発生するおそれがあります。



■異常時使用禁止

異臭、ススの発生、炎の色など普段と異なる異常燃焼を起こしたときは使用しないでください。緊急の場合でもあわてずにレバーを閉じ、消火してください。



■タンクの温度上昇に注意

給油後タンクの温度が上昇すると、タンク内の灯油が膨張し、タンクが破裂するおそれがありますので以下のような行為は禁止します。

- ・ストーブなど熱気のアたる所や直射日光の当たる場所に放置する。
- ※特に自動車内は温度が非常に上昇しますので注意してください。
- ・気温が40℃以上になるような場所に保管する。

■上向け使用禁止

上に向けて使用しないでください。



■火傷に注意

燃焼中や消火直後は火口などの高温部に手などふれないように注意してください。火傷のおそれがあります。



警告 火災に注意

■消火を確認

使用後は、必ず灯油バーナーや燃やしたものの消火を確認してください。必ず水をかけ火だねが残っていないことを確認してください。

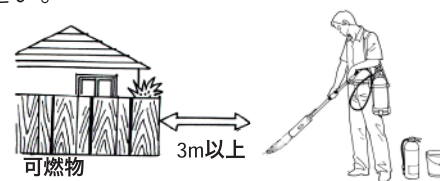


- 風が強いとき、火災の発生の恐れのある場合は使用しないでください。

- 使用の際は消火用の水、又は消火器等を準備してください。
- 消火後、時間をおいてから再度消火を確認してください。
- 燃えやすいもの、燃やしてはならない物、場所にはあらかじめ水をかけておいてください。
- 植木など生木でも燃えることがありますので十分注意してください。
- 火災は思いもかけぬことから発生することがありますので十分注意してください。

◆使用する場所 ——— 安全に使用するために

- 火気厳禁の場所や可燃物(家屋、板べい、かやぶき屋根、はめ板など) 火気厳禁の場所からは3m以上離れて使用してください。



- 家屋、板べい、かやぶき屋根、はめ板など燃えやすいものの近くでは使用しないでください。

- 可燃性ガスの発生しない場所またはたまらない場所で使用してください。また可燃性ガスが発生するものを使用しないでください。
- 必ず屋外で使用してください。
- 使用は、まわりに人や動物がいないことを確かめてください。
- お子様には絶対使わせないようにしてください。またお子様の手の届かない場所に保管してください。
- 使用の際は、作業しやすい靴と衣類を着用してください。

注意

予熱中、火口から火のついた灯油が噴出することがあるので火口前方に可燃物がないこと、人がいないことを確認してください。

注意

消火用の水、又は消火器を必ず準備してから使用してください。



◆草焼のメリット・予熱作業について

■草焼のメリット

- 1.燃料は石油ストーブと同じ灯油です。燃費も良く、安全で経済的です。
- 2.種までしっかり焼却するから、一度の除草で効果が長持ちします。
(次に草が生えるまで日数がかかります。)しかも除草剤を使わず環境にやさしい作業です。
- 3.土壌の殺虫・殺菌が同時にでき、土壌の活性化・連作障害の予防もOKです。

■草焼バーナーの用途

「草焼バーナー」は雑草処理の他、下記のような多様な用途があります。

- 乾燥作業 ●解氷作業 ●芝焼き ●害虫退治 ●畜舎の消毒 ●道路工事

■上手な雑草の焼却方法

生えはじめに焼き払う

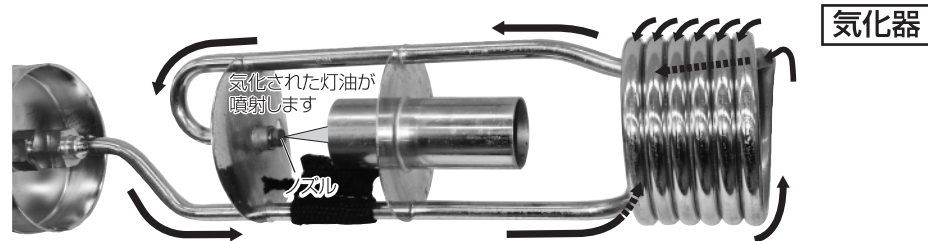
- 雑草は生えはじめに焼き払うのが最も効果的で簡単です。また焼くことにより害虫退治、土壌の殺虫・殺菌、活性化、雑草の種・毛根の焼却など様々な効果があります。

二度焼きが効果的

- 長く伸びきってしまった青草を焼く場合は一度に焼き尽くそうとせず、ゆっくり歩くぐらいの速度で一度簡単に焼いてください。2～3日後、青草は枯れています。さらにもう一度枯れたものを焼却すれば効率よく処理できます。

予熱作業について

灯油式草焼バーナーを使用するにはその都度、**予熱作業**が必ず必要です。灯油は**気化**(液体が気体になること)させないと正常に燃焼しません。**予熱作業**とは、灯油を**気化器**で**気化**させるため、**気化器**を**予**(あらかじめ)、**熱**する**作業**のことです。**予熱**の原理をご理解の上、本説明書をお読みいただき正しく使用してください。

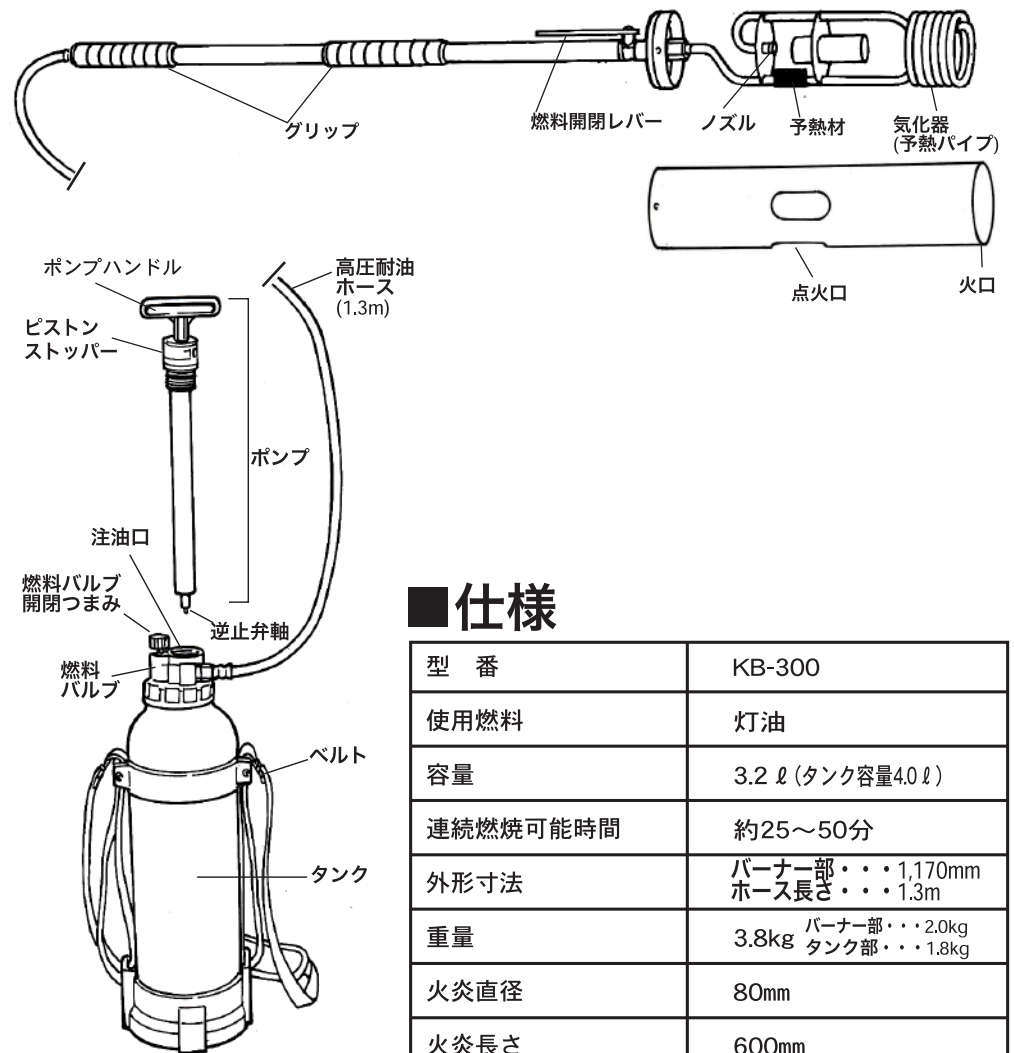


ポンピング(加圧)により灯油がタンクから気化器に送り出されます。

熱くなった(らせん状の)気化器を液体の灯油が通ることにより燃料が気化されます。

◆各部の名称・仕様

■各部の名称 (分解図)

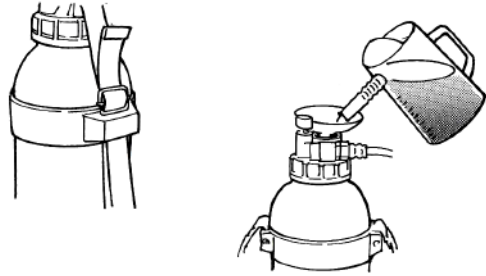


■仕様

型番	KB-300
使用燃料	灯油
容量	3.2 l (タンク容量4.0 l)
連続燃焼可能時間	約25～50分
外形寸法	バーナー部・・・1,170mm ホース長さ・・・1.3m
重量	3.8kg バーナー部・・・2.0kg タンク部・・・1.8kg
火炎直径	80mm
火炎長さ	600mm
予熱時間	約3分
発熱量	70.9kW(61,000kcal/h)
付属品	予熱材(予備用) 注油プレート

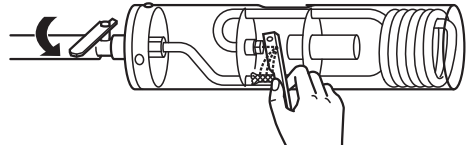
◆作業全体の流れ

1.ベルトを取り付ける

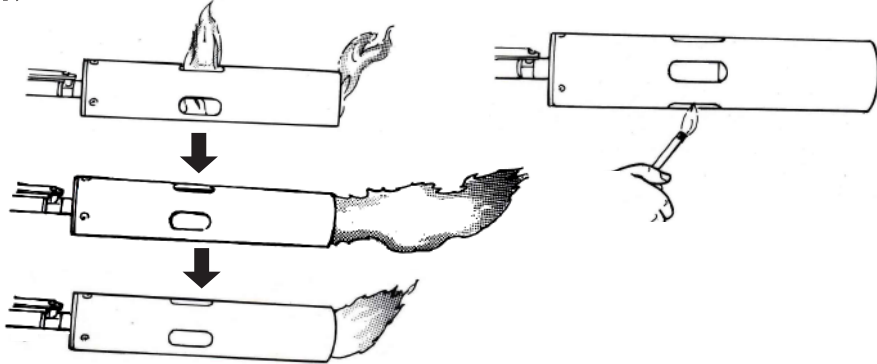


2.給油する

3.予熱の準備をする

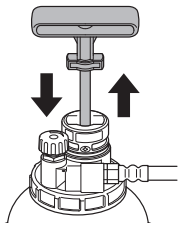


4.予熱をする

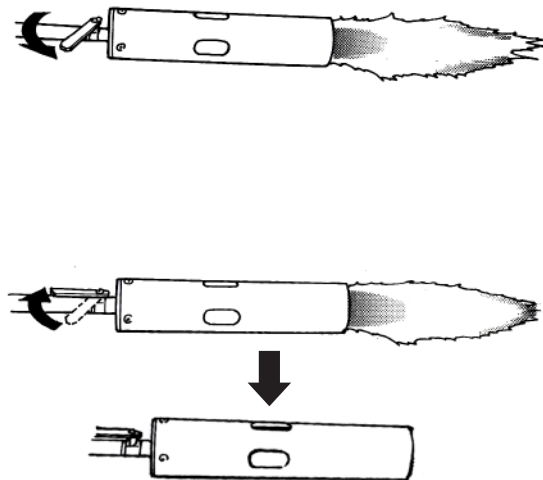


5.予熱の完了

6.火力の調整をする



7.消火する

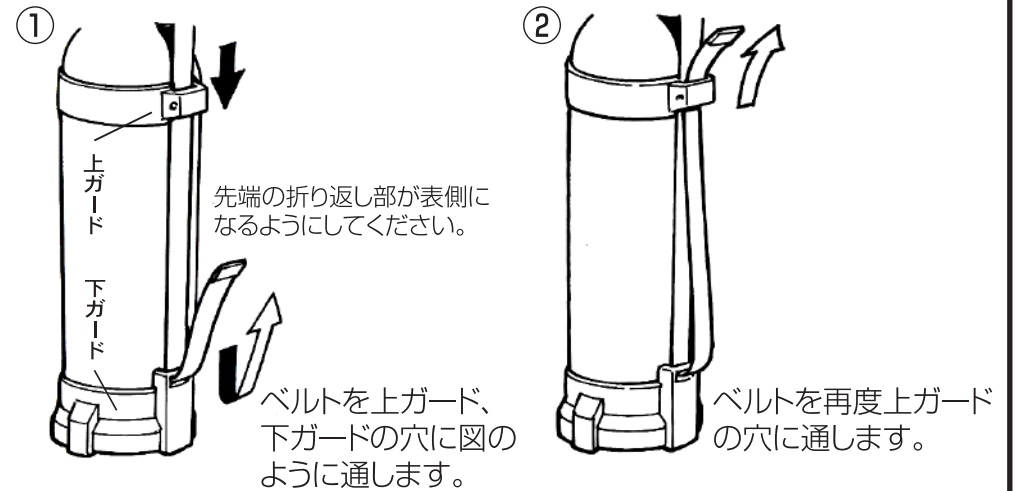


◆使用方法

1.燃料について

- 1.燃料は必ず灯油(JIS1号灯油)を使用してください。
- 2.変質灯油、汚れた灯油、水の混ざっている灯油などは絶対使用しないでください。
- 3.灯油を入れる容器内に汚れ、ゴミがないことを確認してください。
- 4.灯油は必ず火気、雨水、ごみ、高温および直射日光を避けた場所に保管してください。

2.ベルトの取付け方法



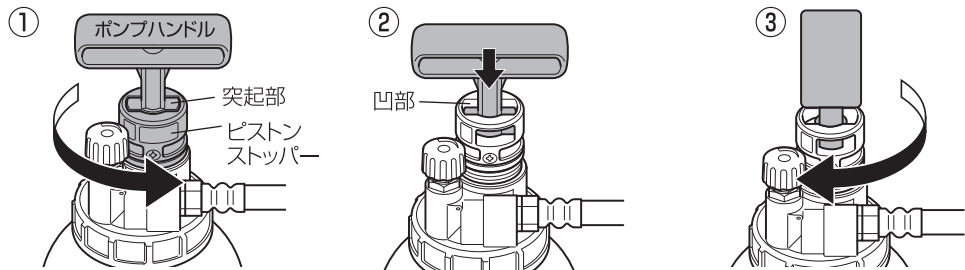
ベルトを固定金具で固定します。

ベルトの長さは、固定金具を使って調節します。

※ベルトが固定金具でしっかり固定されていることを確認してください。

3.給油する

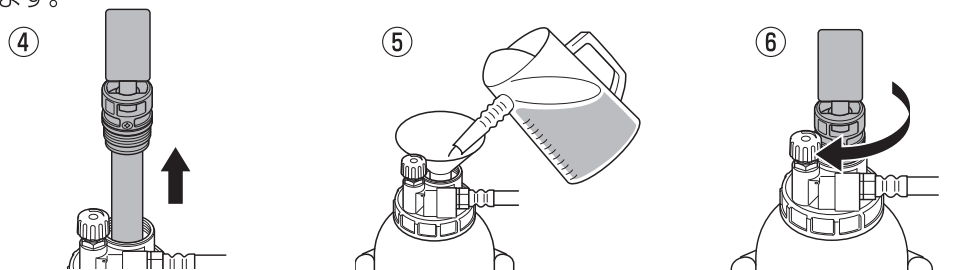
燃料開閉レバー及び燃料バルブ開閉つまみが閉じていることを確認します。



① 図の突起部と凹部を合わせ、ポンプハンドルを左方向へ約4回転半させ、ピストンストッパーのネジが外れるまで回します。

② ポンプハンドルをピストンストッパーの凹部に合わせ、下まで押し込みます。

③ ポンプハンドルを右方向へ90°回し、ポンプハンドルを「ロック」させます。



④ ポンプハンドルを「ロック」した状態でポンプを抜き取ります。

⑤ タンクに灯油を3.2ℓ入れます。

⑥ 給油後ポンプを差し込んでポンプハンドルを右へ回し、止まる程度よりややきつめに締めます。

※タンク容量は4ℓですが、空気室を確保するため燃料は3.2ℓ 以上入れないでください。



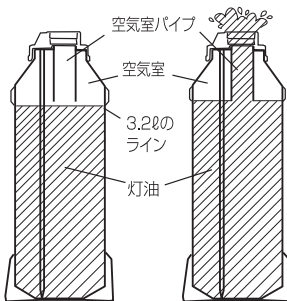
警告 灯油の入れ過ぎに注意

灯油は3.2ℓ以上入れないでください。入れ過ぎるとタンクの温度上昇により破裂する恐れがあります。



注意 灯油のもれに注意

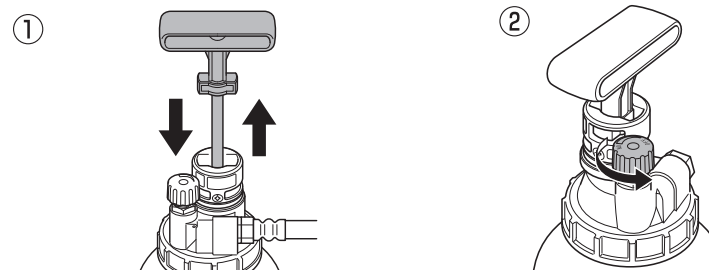
給油時灯油がこぼれた場合は布等でよく拭きとってください。給油後灯油のもれないことを確認してください。



灯油を入れすぎると右上図のように注油口から灯油があふれ出る構造になっています。

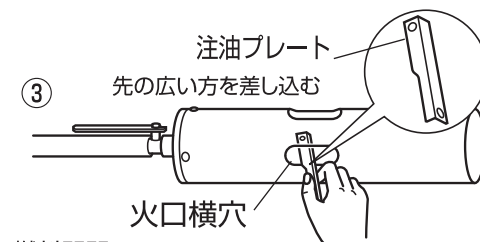
4.予熱の準備をする

気化器に灯油を充満させ、予熱材に灯油をしめらします。

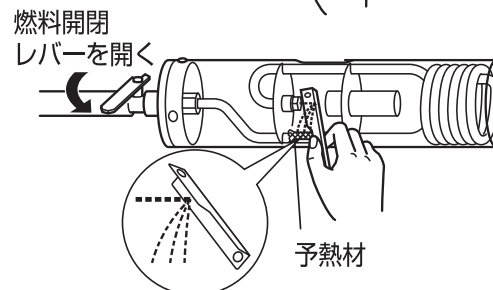


① タンクを地面に置き、タンクに加圧されていない状態からポンプを3~5回押しタンクに圧力を加えます。

② 燃料バルブ開閉つまみをONの方向(左)へ止まるまで回し全開にします。



③ 火口横穴より付属の注油プレートがノズル前方へ差し込み燃料開閉レバーを開きます。



灯油が注油プレートにあたり、予熱材に流れこみます。灯油が予熱材に十分しみたら燃料開閉レバーを閉じます。

灯油を注油プレートに当て予熱材に落とす

灯油はやや多めに(火口先端から灯油が滴り落ちる位)しみ込ませてください。灯油の量が少ないと予熱が完了する前に火が消えてしまう場合があります。

※付属の注油プレートを紛失した場合は金属ヘラなどを代わりに使用してください。



危険 加圧後の灯油もれに注意

圧力を加えた後タンクとホース等の各つぎ目、またバルブやポンプの取付部等から灯油のもれ、にじみがないことを必ず確認してください。灯油のもれ、にじみがある場合は絶対に使用しないでください。使用中もときどき灯油のもれがないことを確認してください。

5. 予熱をする

1. 燃料開閉レバーを閉じた状態のまま、点火口より予熱材にライター等で点火します。

※風のある時は、火口先端に風が流れる様に追い風で予熱を行ってください。



予熱はホース側のグリップを少し高くして図のような状態で行います。

メラメラとした炎で気化器を十分予熱します。
※予熱中火口から火のついた灯油が噴出することがあるので、火口前方に可燃物がないこと、人がいないことを確認してください。

徐々に火炎が噴射します。

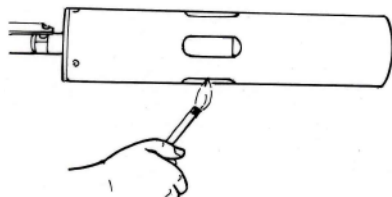
2. 火炎が噴射して炎が大きくなるまで(約3分間)十分に予熱します。

3. 約3分で「ゴー」という音とともに火炎が噴射します。

火炎が噴射して炎が大きくなるのは、気化器(予熱パイプ)の中の灯油が気化され膨張し、ノズルから噴射するためです

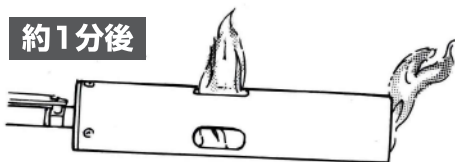
火炎噴射後、炎が小さくなったら予熱完了です。

そのまま燃料開閉レバーをゆっくり開きます。タイミングが早すぎると予熱不十分で、赤い生火が大きく飛び出し危険です。その際はレバーを閉じて予熱を続けてください。遅すぎると気化器内の燃料が燃え尽きて火が消えてしまいます。



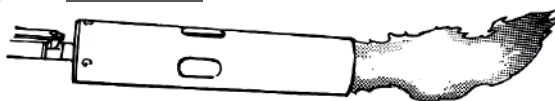
「ゴー」という音で火炎が噴射して炎が大きくなるまで約3分間十分に予熱します。

約1分後



※予熱中に火口をのぞき込まないでください。炎が吹き出ることがあり危険です。

約2分後



約3分後



気化器内の灯油が残り少なくなり「ゴー」という音が消え、炎が徐々に小さくなります

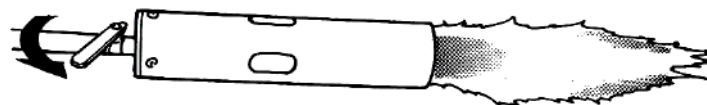
※予熱時に燃料開閉レバーのところから白煙の出ることがありますが異常ではありません。

⚠ 警告 生火に注意

予熱不十分のまま燃料開閉レバーを開くと生火が大きく燃え上がったり生火が5~10m飛び出していきることがあり非常に危険です。予熱を十分行ってから燃料開閉レバーを開いてください。



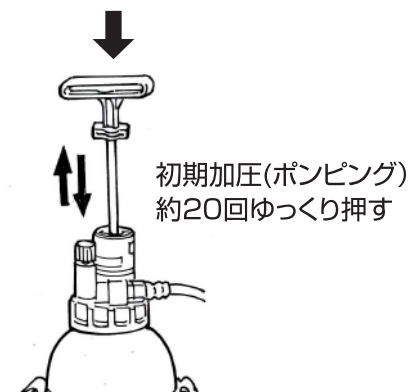
6. 予熱の完了



燃料開閉レバーをゆっくり開きます。
※炎が消える前に燃料開閉レバーをゆっくり開いてください。炎が消えた場合は、予熱を最初からやり直してください。

生火(灯油が気化されずに液体のまま噴射し赤く燃え上がる)が出ないことを確かめてからタンクを地面に置き、初期加圧(ポンピング)としてポンプを約20回ゆっくりと押しタンクに圧力を加えます。

※生火が出る場合は予熱不十分です。燃料開閉レバーを閉じ、予熱を最初からやり直してください。



7. 火力の調整

火力調整は燃料開閉レバーではなく、加圧(ポンピング)の回数によって火力を見ながら行います。

※必要以上に圧力を加えると燃料の消費が早くなるばかりでなく生火になることがありますので必要以上に圧力を加えないでください。また圧力が低下すると火力が弱く(火炎がいきつきをする)なりますので火力を見ながら約5分おきに約20回を目安に加圧(ポンピング)を行ってください。

※加圧(ポンピング)後は必ずポンプハンドルをロックしてください。

※一度に30回以上の加圧(ポンピング)はタンク内の圧力が必要以上に高くなり危険です。おやめください。

◆使用方法

加圧(ポンピング)は
約5分おきに約20回を目安に

使い始めの燃料の量が約1.6ℓ以下(タンクの約半分以下)で使う際は、予熱完了後の初期加圧(ポンピング)は空気室が広いいため約50回を上限として行ってください。その後は約5分おきに約20回加圧(ポンピング)を行ってください。

8.予熱に失敗したら

燃料開閉レバーを閉じタンクの圧力を抜いた後、予熱を最初からやり直してください。(本体が熱くなっていますので、やけどにご注意ください)

9.消火

燃料開閉レバーを閉じます。気化器(予熱パイプ)内に灯油が残っているため火はすぐには消えませんが次第に消えていきます。



警告
消火を確認

完全に消火するまで約2~3分かかります。火炎が消えかけた後に、火炎が吹き出す場合もあります。また、火口内のノズル先端から小さな火炎が出続ける場合があります。完全に消火したことを必ず確認してください。

10.収納・保管

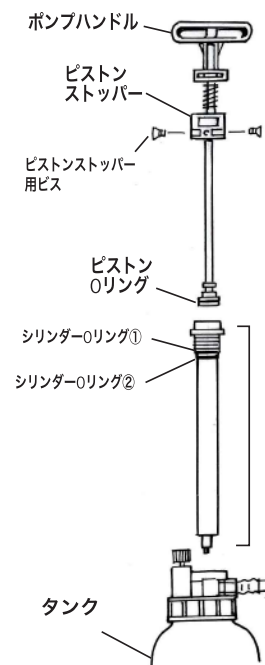
- 1.使用後は完全に消火したことを確認後ポンプハンドルを左へ回しゆるめ、タンク内のエア(圧力)を抜き、残った灯油も必ず抜き再度ポンプハンドルを締めます。
※この作業は燃料タンクをすべらない水平な地面に置き直立状態で行ってください。また霧状の灯油が吹き出ることがあるので、周囲に火気のないことを必ず確認してください。
※またエア(圧力)を抜く際、ポンプハンドルを左へゆっくり回し一度「シュー」と音がしたら一旦止め、音がしなくなったら再度ポンプハンドルを左へ回しゆるめてください。
- 2.タンク側の燃料バルブ開閉つまみをOFFの方向(右)へ止まるまで回し閉じます。
- 3.バーナー部が十分冷めてから直射日光、雨、湿気、ほこり等のない所に保管してください。

11.緊急時の消火方法

緊急の場合は燃料開閉レバーを閉じ、続いて燃料バルブ開閉つまみを閉じバーナー部を水中につけるか、又消火器を使って消火します。

◆部品交換のしかた

気化器(予熱パイプ)、パッキン(Oリング)、予熱材は消耗品です。破損した場合は、別売の交換用部品(下図)と早めに交換してください。



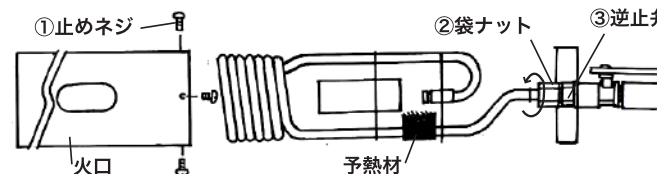
●パッキン(Oリング)の交換方法

- 1.ポンプハンドルを左へ回しゆるめ、ポンプを燃料タンクから引き抜きます。
- 2.ピストンストッパー用ビス(2本)を外します。
- 3.ポンプハンドルを持ちシリンダーよりピストンを引き抜きます。
- 4.ピストンOリングを交換します。
※小さいθドライバーなどを使用してください。
※ピストンパッキン(Oリング)が乾燥しているとピストンを押ししても加圧できないことがあります。このような時は潤滑剤(シリコングリスなど)を塗布します。(交換用Oリング GT-5001は塗布済)
- 5.ピストンをシリンダーに入れます。
- 6.2.と逆の手順でシリンダー上部をピストンストッパー用ビス(2本)で固定します。
- 7.シリンダーOリング①、②を交換します。
- 8.ポンプを燃料タンクに入れシリンダーをポンプハンドルで止まるよりややきつく締めます。

交換の際の注意

- 1.Oリングの交換は本体が完全に冷めてから行ってください。
- 2.Oリングの交換後、灯油漏れ等がないことを確認してください。
- 3.Oリングの交換の際は、Oリング器具にキズを付けないように注意してください。

●気化器(予熱パイプ)の交換方法



※バーナー一部が完全に冷めてから交換してください。

- 1.タンク内の圧力を抜いて、燃料開閉レバーが閉まっていることを確認します。
- 2.①止めネジ4本を外し、火口を取り外します。
- 3.③逆止弁をスパナ、モンキー等で固定し、別のスパナ、モンキー等で②袋ナットを矢印方向に回してはずします。気化器(予熱パイプ)がはずれます。
- 4.新しい気化器(予熱パイプ)を逆の手順で図のような向きに組み付けます。

◆日常の点検・手入れ

■点検・手入れの際の注意

- 日常の点検、手入れは必ず行ってください。
- 点検・手入れは消火し、必ずバーナー部分が完全に冷めてから行ってください。
- 故障または損傷したと思われるものは絶対使用しないでください。
- 不完全な修理は危険です。万一具合が悪くなって処理に困るような場合は、お買い求めになった販売店または、当社「お客様係」0120-75-5000までご相談ください。

■点検・手入れ方法

- 各部に油もれ、油のにじみがないか確認してください。
- 燃料タンクに油もれ、圧力もれがある場合はパッキンを交換してください。(交換方法は13ページ参照)
- 気化器(予熱パイプ)は消耗品です。使用前に灯油がノズル以外の気化器からにじみ出る場合、また燃焼中青色の火炎の中に赤い炎が出るような場合は、気化器に穴があき破損したと思われます。このような場合は新しい気化器と交換してください。(交換方法は13ページを参照)

■保管

- 使用後は必ず灯油を抜きとって保管してください。
- お子様の手の届かない場所に保管してください。
- 直射日光の当たる場所に放置したり、雨ざらしにしないでください。
- 転倒・落下させないでください。

※タンクの耐用年数は使用開始から約8年です。約8年過ぎた場合は使用しないでください。またタンクに腐食、へこみ、穴など異常のある場合は使用しないでください。

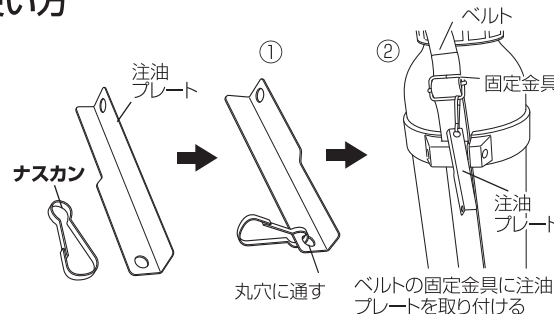


灯油を入れたまま保管すると灯油の変質、器具の故障の原因になりますので使用後は必ず灯油を抜き取って保管してください。

注油プレート用「ナスカン」の使い方

付属の注油プレート用「ナスカン」は、注油プレートの使用後の紛失を防ぐために使用します。

- ①右図のようにナスカンを注油プレートの丸穴に通します。
- ②注油プレートの使用後、ベルトの固定金具に取り付けて保管します。必要に応じて使用してください。



◆故障・異常の見分け方と処置方法

※生火…灯油が気化されずに液体のまま噴射し、赤く燃え上がる状態

現象 原因	原因						処置方法
	燃焼中火炎が小さくなる	火炎がいきつきして安定しない	使用中に火が消える	灯油がノズルから噴出しない	生火※が出る	タンクに加压できない	
予熱が不十分である					○		予熱を最初からやり直す
タンク内の圧力が低い	○	○		○			加压ポンプによって加压操作をする
ノズルがつまっている	○			○			ノズルを細い針金等で掃除する
燃料が不足している	○		○				消火してから燃料を補給する
圧力のかけすぎ					○		ポンプキャップをゆるめタンク内の圧力を抜き再び予熱を最初から行う
急激な加压		○			○		ポンプキャップをゆるめタンク内の圧力を抜く
焼却時に出る煙を吸い込んだことによる酸欠			○				火口を焼却物から離して追い風になるように使用する
ピストンパッキングが乾燥している						○	ピストンパッキングに油をつける。それでも加压できない時は新しいパッキングと交換する
気化器が破損している							新しい気化器と交換する
変質した灯油、汚れた灯油、水の混ざった灯油を使用している			○		○		変質した灯油、汚れた灯油、水の混ざった灯油は使用しない。灯油の保管状態に注意する

使用上のアドバイスメモ

●ポンプの加压回数について

本説明書で表記の回数は満タンに給油時の回数です。給油量が少ない場合は加压回数を増やして使用してください。

●気化器の消耗について

気化器は消耗品です。以下のような使い方を続けると気化器の交換時期が早まりますので注意してください。

- 焼却対象物に火口を近づけ過ぎて使用する。
- 加压不足の状態(火炎がいきつきをする)で使用し続ける。